

9月29日 読図講座（机上）報告 下坂 元人

読図講座（机上）報告

教育部 下坂 元人

- <日 時> 2018年9月29日（土）14-16時
<場 所> 山ルーム
<参加者> （敬称略：五十音順）赤松、木元、竹原（順）、徳田、吉澤
（教育部）中田、秋山、下坂
<内 容> 1. 読図とは
2. コンパスの使い方
3. YAMAPの使い方
以下、当日ご説明したポイントです。

1. 読図とは

- (1) 地図は、「読む」もの。→ 何を読むのか？ → 先を読みます。
⇒ つまり、地図&コンパスは、先を読んで計画を立てるためのもの。
- (2) GPSは、現在地を知るためのもの。
- (3) 読図とは
- ① 計画時：地図から、おおよその標高差や地形を読み取る。
⇒ ルート・コースタイムなどの計画を策定。
 - ② 当 日：地形図と現地を照らし合わせて、現在地を知る（← これは、GPSの方が簡便）。
⇒ 計画との差異を知り、計画を修正していく。

2. コンパスの使い方

- (1) 整置のしかた
⇒ 整置とは、地図と現物の地形を照合させること。
- ① 磁北線を引いた地図を広げる。
 - ② 磁北線が磁針に収まるようにカプセルを重ねてコンパスを置く。
 - ③ 地図の上にコンパスを置いたまま、磁北線と磁針が平行になるよう地図を回転させる。
 - ④ コンパスを外す。
 - ⑤ 眼前の風景と地図の情報を一致させる。
- (2) 目的地への方向を知る。
※ 地図上の現在地が分かっているという前提（←ここは、GPSが便利）。
- ① コンパスの長辺の根元に出発地点、先端に目標地点を沿わせる。
 - ② 地図上の磁北線とカプセル内の南北指示線が平行になるようカプセルを回す。

- ③ 地図を外す。
- ④ コンパスを体の正面に水平に構える。磁針とカプセル内のノースマークが重なるまで体を回す。
- ⑤ 水平に構えたコンパスの矢印進行線が進む方向です。

3. YAMAP の使い方

※ かなび 2018年4月 No.320 p.11 「教育部だより スマホアプリの案内」も参照ください。

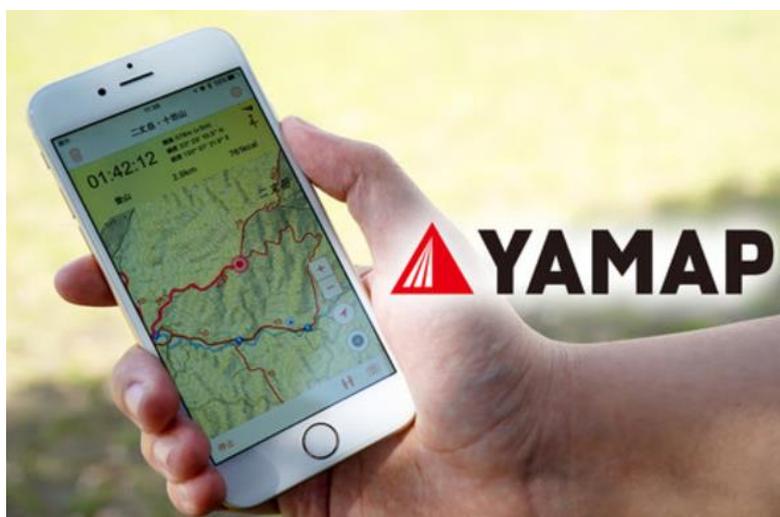
当日は、YAMAP アプリをインストールしているスマホを持参いただき、地図のダウンロードの仕方を説明しました。例として、甘南備山の地図のダウンロードをやってみました。

- ① YAMAP アプリを立ち上げる。
- ② 画面上部の検索バー（虫眼鏡マーク）を押す。
- ③ 検索バーの下の 地図 を押す。
→ ここで、人気の地図が表示されます。お目当ての地図が表示されていたら、⑥へ。
甘南備山は、表示されていないので、④へ。
- ④ 検索バーに 甘南備山 と入力し、右下の 検索 を押す。
- ⑤ 検索結果として 交野山・国見山 と表示されます。
- ⑥ 交野山・国見山 を押す。
- ⑦ 地図をダウンロード を押す。
- ⑧ 無料地図 を押す。
- ⑨ ダウンロードが終了したら、OK を押す。

⇒ 地図が見られました！！

残念ながら雨天のため、アプリを見ながら、現在地や軌跡の表示を確かめる実地トレーニングは中止としました。

以上、ごく簡単にポイントのみの説明となります。ご質問等ありましたら、お気軽に下坂までお願いいたします。



10月7日 瓢箪崩山 下坂 元人

山名	瓢箪崩山	山行名	例会			
ルート	戸寺バス停～寒谷峠～瓢箪崩山～三宅八幡宮					
山行日	2018年10月7日	天候	晴れ			
参加者	リーダー：下坂 サブリーダー：秋山 女性：吉澤 男性：土岐、平尾、森本 合計：6名					
ルート概略図 	コースタイム					
	地名	時：分	地名	時：分		
	戸寺バス停	集		三宅八幡宮	着	14:46
		発	9:00		発	
	寒谷峠	着	10:33		着	
		発	10:55		発	
瓢箪崩山	着	11:02		着		
	発	11:16		発		
(昼食)	着	12:04		着		
	発	12:46		発		
山行報告						
<p>今回、読図講座として、2017年12月13日の第13回初級登山学校の実技内容をそのままやらせていただきました。当時の講師の奥西さん作成の資料を使い、①～⑩のポイントでの課題をクリアしながら進んで行きました。また、CL, SL以外の参加者が全員2回ずつ先頭を担当し、ルートファインディングしました。</p> <p>今回、8月の下見時よりもさらに激しく倒木しており、整備されたばかりの取付き部分の登山道は通れなくなっていました。途中から登山道に復帰し、丹念に地形図を追いながら寒谷峠に出ました。ここで地形図を見たのですが、なかなか難しいです。瓢箪崩山への登山道を現地で見極めるには、標高差も読み取らなければなりません。正解は、標高差を一気に上がっていく尾根道。でも、地図にはない標高差のないトラバースしている道が、行きやすそうなのです。現実としては、尾根道は倒木があり、トラバースする道を少し行ってから、尾根道に戻る形になります。</p> <p>頂上まではすぐです。そこで、整置をして、みんなで比叡山を確認しました。ここでどちらへ下りるか確認して、目指すは昼食場所。が、峠のようなところへ出て、交差する「道」っぽい方へそのまま行く先頭さん。ここでは、昼食前の事故が起きやすい時間帯でもあり、割とすぐに声をかけて帰ってきてもらい、地図を見直して正しい尾根道へ。</p> <p>昼食は、何だか広～い三角形のピークで、ヒルがいるかも、と注意した自分がやられていました。さあ、出発！と言ったら、左のウエストが流血の惨事になっていました。</p> <p>そこから、また、ポイント毎に地形を確認、コンパスを入れて進行方向を確認しながら進んで行きました。が、途中、複数の尾根があり、右へ行かねばならないところをまっすぐ行く先頭さん。ここでは、「道迷い」を体験していただくために、しばらくそのまま行ってもらいました。途中、声かけして引き返すか別のルートから正規道に戻るか判断してもらい、引き返しました。</p> <p>その後、南へ行っていたのに、いつの間にか北に向かっているというルートを体感していただき、最後のポイントで、もう一度コンパスを入れて方向を確認し下山しました。</p>						
ヒヤリハット 国際会館駅にて、ホーム階で待っていた方がバスに乗り遅れました。連絡が行き届かず、すみませんでした。						